



慶應義塾大学ビジネス・スクール

パンデミックとワクチン

5

1976年2月、米国の保健教育福祉長官のもとに、従来と異なるインフルエンザの感染が発生したと報告が入った。詳細は次のような内容である。

この年の1月中旬に、ニュージャージー州にある陸軍フォート・ディックス基地内の新兵訓練センターで、多くの新兵が呼吸器の異常を訴えた。何人かは入院したが、入院を拒んで訓練を続けた1人が徹夜の行軍訓練で死亡した。死亡者を含む何人分かの検体を検査機関で調べたところ、複数名から目下流行しているH3N2型（A香港型）インフルエンザウイルスが検出された。それとは別に、死亡者を含む他の4人の検体から、同定できないインフルエンザウイルスが検出された。不明の検体はアトランタのCDC（Centers for Disease Control^[1]：疾病対策センター）に送られ、分析の結果、豚由来のHsw型インフルエンザウイルスであることが判明した。

10

15

Hsw型インフルエンザがこれだけの人数に感染した報告は、史上最悪と言われるスペイン・インフルエンザの影響が残っていた1930年以後のことである。今回は発生の状況から、スペイン・インフルエンザの時と同様に、ヒトからヒトへの感染が発生している可能性が高い。なぜなら新兵訓練センターでは何千人もの新兵が密集した共同生活をしていて、そこで時期的に集中して発生している。その一方で、複数の新兵が豚から直接感染するほど、ヒトと豚が近接している環境ではないからである。

20

スペイン・インフルエンザ

スペイン・インフルエンザは史上最悪のインフルエンザと言われ、世界で5000万人（人口の3%）、米国だけでも45万人（人口の0.4%）の死者を出したと推測される。スペイン・インフルエンザの流行は第一次世界大戦中の1918年に始まり、全世界に広がって、第一次大戦の民間人を含む戦死者1,600

25

^[1] 現在の名称はCenters for Disease Control and Preventionで、略称は同じCDCである。

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授 大林厚臣によって作成された。本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は<http://www.bookpark.ne.jp/kbs/>から。

30